

夢もっとひろがれ

4

発行・編集
いぶき福祉会後援会

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL.058-233-7445
FAX.058-232-9140
E-mail.ibuki@alto.ocn.ne.jp
(1部100円)



いぶき
今年の新成人は
1名です

第二いぶき
今年の新成人は
2名です

詳しくは8.9ページ
をご覧ください



成人を祝う会 晴れやかに開催

すっかり春模様ですね。4月は新しい始まりのとき。いぶきには今年度も多くの仲間たちが入ってきました。初々しい姿に、先輩になる仲間たちの顔もキリッと引き締まります。仲間も職員も・・・全員が新しい気持ちで出発の春です。

- もくじ
- ② 後援会長あいさつ
 - ③ 「外部の支援者」いぶきを思う
 - ④ 「シリーズ」私と息子といぶきと
 - ⑤ 親父の会結成
 - ⑥ 仲間のすがた〜日常の動作・発達〜
 - ⑦ 成人を祝う会
 - ⑧ 仲間のすがた〜コミュニケーション〜
 - ⑩ 職員の姿
 - ⑪ 今年もFC岐阜を応援します
 - ⑫ 新人職員紹介
 - ⑬ いぶきができるまでその五
 - ⑭ いぶきまつり告知
 - ⑮ 情報掲示板
 - ⑯

2014
Spring
Vol.178

後援会長あいさつ

『希望ある社会』

東京の中小企業の社長さんは新制中学卒の人が過半を占めるとい

う報道番組を見たことがある。私たち団塊世代が40代の時分ではなかったかと思う。そのとき学生服を着たまま満員の集団就職列車に乗って上京した同級生の顔がよみがえった。15歳で親と別れ、社会人になつていく少年の姿は健気という以外いいようがない。しかしそこにはあまり暗さはなかったように思う。東北の片田舎に残るより、急成長し続ける東京圏へ出るという期待効果

のはるかに強かったのだと思われる。これを世間知らずの子供の幻想と

簡単に片づけることはできない。頑張れば報われる、という事実がそれなりにあったことが重要なのだ。

実際、40歳過ぎのころ、秋田であつた同級会には東京で工務店を構えているとか、店をもつたという同級生が参加していて羽振りもよさそうであつた。

ながながと自分の思い出を綴つたのは、地域・所得格差が縮小していく時代(1960・80年)には多くの人にチャンスがあり、希望や誇りを持つて生きることが可能であつて、そうした環境下では人は他者に対して寛容であることを強調

したいためである。福祉国家化が世界的に認められ、競争社会の権化にみえるアメリカですら公民権法に象徴される「偉大な社会」実現へ向かつて進化していった。日本が世界で最も安全な社会という神話ができあがつたのもこの頃である。

一転して「頑張れば報われる」をスローガンにして福祉国家批判を展開することが流行になった感のある昨今、いろんな格差は広がる一方ではない。こんな社会では他人に対し、寛容・寛大であることが難しい。頑張るといふことが他人を蹴落とすことであり、何事につけ相手の意向を早めに理解し、相手の期待するパフォーマンスを示現する

要領が求められる。コミュニケーション、技能、健康などすべて自己責任で現代風に身に付けなくてはならない。これでは当面の課題とは距離のある他者を顧みる余裕などあるはずもない。格差は、所得はもちろん、希望・意欲などの方面にまで拡大する。

アベノミクスにより大企業の正社員を中心に久しぶりのベースアップが実現したという宣伝がなされている。しかし今や4割近くに達した非正規の従業員の正規化は依然展望が開けない。むしろ派遣雇用などは一層普及する勢いである。正規社員の非正規化が断続的に進むと見られ、人々の期待を削いでいる。人のヒエラルキー化(階層化)が図

られる方向に向かうとき、社会は、相互に支え合うことを信条とする福祉重視のベクトルから遠い存在になつていく。仲間を支援する輪を広げる運動の課題は広いすそ野を必要としている。

いぶき福祉会後援会長

高橋 弦

いぶき福祉会 後援会総会のお知らせ

日時

6月29日(日)

午前10時～12時

場所

長森コミュニティセンター

大集会室

(岐阜市前一色1丁目2番1号)

多くの方のご出席をお待ちしております。

シリーズ いぶきを支える人たち

喜寿、還暦、成年を迎えられた皆さん、おめでとうございます！

福祉施設の利用者・生活者はだいたい年齢ごとです。喜寿の祝いだったら高齢者だけの写真。いぶき福祉会は違います。みんないっしょにニコニコ。

住み慣れた場で、家族や親しい人たちと長年暮らし、こうして祝いの齢を迎えられる、それをみんなでお祝いできる。ひとりひとりに向かい、その人が困っていることをどうサポートしていけばいいのかを、ていねいに職員・ご家族・当事者である仲間の皆さんと共有しあっているからこそその姿だ

と思います。ずっといぶきの「仲間」として、地域に暮らす一員として、最期まで地域で生活できることを目指す。いぶき福祉会にかかわる皆さんが、仲間が地域で生活する手段と能力を出し合っているのだと深く思っているのです。

本紙での職員の日常生活実践報告は、執筆の苦労も含め、やりがいといちばん大事な仲間の姿がよくわかります。書くことで自分がどうしたいのか、どうしたかったのか、〇〇したこと仲間が求めていたことがわかった、ケアが上手にできた、など整理されていきます。それは自身の喜びになるだけで

るだけでなく、「仕事」の質を向上させ、ケアとは・福祉とは何かを考えるきっかけになると思います。書いた内容は、ほかの人たちの参考になりますし、「いぶきの人と場」の発信でさらなる応援をいたくになります。箇条書きでもOK。まずは書き出してみましよう。今後も続けていただければと思います。

ケアホームでの生活、ねこの約束などのいぶきブランドにも、皆さんの着実な実践、生活のこまかな心遣いに地域の人たちのかかわり・応援が見られます。皆さんが福祉にこだわらず、さまざまな職域の方と何かできる場をもっともつとつくりたいですね。

「百々染」はいぶきらしい取り組みで、せつかくのフェイスブックもあるのですから、「今日の色と仲間」とか、テーマをつくって定期更新すれば、継続して見る人が増えるのではないのでしょうか。本紙のPDF化、いぶき全体のホームページを上手に活用していただければよいと感じます。食事づくりの方などの声も是非お願いします。

「いぶきが大切にしたいこと」をつねに考え、異業種、多職種、もちろん行政や地域の人たちとのつながりで、この厳しい福祉状況を乗り切ってください。後ろを振り向けば、きつと誰かがフォローし、サゼッションをくれるはず。さらなるケアホーム建設も小

目的達成から拡がると思えます。これからも「いぶきらしい」皆さんと仲間の姿を期待しています。

五十嵐美那子



五十嵐美那子さん

図書出版生活思想社代表。女性、福祉を主とした市民活動実践書を刊行されています。いぶき福祉会が発行した2冊の本『障害者福祉がかわる 考えよう！支援費制度』『この街で仲間とともに障害者自立支援法をこえて』の編集に携わっていただきました。

シリーズ 私と息子といぶきと

息子と歩む画業

38歳の時に娘3人
に続いて第4子として
息子の多聞が生まれ
た。誕生の喜びは言葉
に尽くせなかった。う
れしかった。年齢的に
は仕事が一番油に乗る
時期であるだけに、自
然に力がみなぎる思い
だった。

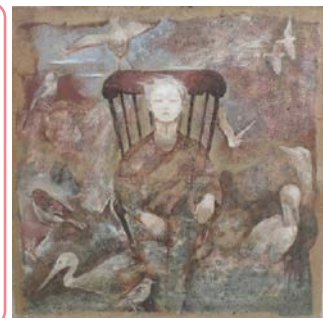
それからわずか2
カ月後、風邪をきつ
けにして重篤な髄膜
炎に罹り、今日に至る。
大喜びの後の、当時
の驚き、怒り、悲しみ
は計り知れないが、今
は表面的には粛々と
した感情である。今年
30歳を迎える息子を
不思議な存在として

とらえ、そこから得る
情感を絵に表現して
ようと試みている。つ
まり、私の仕事の一つが
油彩画を描くこと。そ
れも主に描くのは人物
画である。多聞の誕生
後は、物言わぬ息子が
与えてくれる情感をテ
ーマにしてきたといえ
る。

ここに3点だけ、家
族の思いをこめた油彩
画をとりあげた。いず
れも20年あるいはそれ
以上前の古い作で、当
時は、激しい気持ち
を押し殺し隠していた
うだ。

『寂聴』

91cm×91cm



安楽椅子は母。やさし
く支えてくれる。寝返り
も話すことも出来ない
が、耳からいろいろ聴こ
えてくる。様々な人の声
が、鳥のさえずりのよう
で楽しい。

『聖母子像』

162cm×162cm



鬼子母神と阿修羅的図
像をもとに、あらゆる
困難に立ち向かう強い
意志を形にした。10年
間程続く阿修羅シリ
ズ第1作目。

『聖家族』

162cm×162cm



赤い大地に生きる女た
ちを、枯れたヒマワリの
周りを囲むように配置
した。

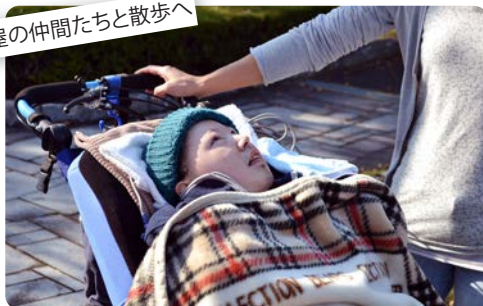
老婆は息子の祖母で、
誰よりも息子を慈しん
でくれた。多聞2、3歳
時の作で、家族が全てを
息子にそそいでいた。

古い作品をひきだし
た内容で恐縮だ。今は
こうしたストレートな
感情を削ぎ落とし、息子
から感じる「あること
の不思議」を、空風火
水地に光の要素を加え
合わせ、単純化した色
かたちの表現を志向中
である。

富岡多聞の父

富岡卓博

部屋仲間たちと散歩へ



「母親任せにしない」・
・そんな思いが集ま
つて、「父親の会」結成

去る2月11日、いぶ
きに通う仲間のお父さ
ん方が岐阜市のハート
フルスクエアGに集
まり「父親の会」を結成
しました。

「母親任せにしない」
—そんな思いから、父
親ができること、やり
たいことを語り合い、行
動する「父親の会」が立
ち上がりました。

結成を兼ねた第一回
の交流会には12名のお
父さん方が参加。いぶ
き福祉会横山理事長か
ら「父親自身の集まり
そのものが大事」「結論
を急がず明るく活発な
話し合いを経て、いぶき
発展に寄与ください」と
熱いエールが送られ

ました。

「兎に角、息子の働け
る場所を」と廃品回収
での資金集めからスタ
ートしたと話しはじめ
た竹中さん。「こんなに
大きくなるとは思いも
よらなかった」と語る一
言一言にいぶきの歴史

「父親の会」結成

を感じました。

今年いぶきで成人式
を祝ってもらった河出
さん、白木さん、山田さ
んからは「思わず涙し
た・・・」など、成長を
見守ってこられたお父
さんの心境が語られま
した。還暦を前後する
世代からは自らの体力

の限界とともに子供の
将来の不安が語られ、
「頼れる施設のあり方」

「いぶき福祉会の「継
続安定」等について、林、
北川両施設長を交えて
深みのある話し合いが
展開されました。

日常の仕事に追われ
忙しい日々のお父さん

こうして集まってみ

ると父親同士の交流が
いかに少なかったか、改
めて実感させられまし
た。参加されたお父さ
んは全員発言。自己紹
介と子供の様子を語り
合い予定時間を大幅に
オーバーしてしまいま
した。

方が休日に子供と過
ごす様子を話される姿
は新鮮でした。「息子は
80kgで大変だ」・・・
語る姿は生き生きして
おられます。「ドライヴ
が大好きだ」「音楽を
楽しんでる」・・・
等々、交流が深まりま
した。

今後はもっと多くの
お父さんの参加で交
流の輪を一層広げ、
「父親の会」の存在を
アピール。

4月20日の「いぶき
まつり」では一段と元
気な「イカ焼き」テン
トにお父さん全員集
合。待っています。



親父の会に集われた
お父さんたち



「父親の会」の
今後注目!!
ですよ。

文責 前川寧士

いぶき 仲間のすがた

体と心を安楽に

リフレクソロジー



体を休める大切さ

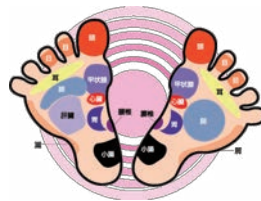
こらぼでは、紙すき、散歩、音楽療法など、仲間がいきいきと自分らしさを発揮できる活動を大切にしています。そして、これらの活動と同じくらい、体を休めることも大切にしています。適度な休息は誰にも必要なことではありませんが、こらぼの仲間には特に体力面で弱い仲間が多く、意図的に休息の場を設けないといけません。気持ちが高揚しすぎてうまく休めず、疲れきっててんかん発作に繋がってしまったり、頑張りす

ぎて翌日の体調に響いたりするからです。そこで、今年度から新しく「リフレクソロジー」を通して体をケアする活動を始めることになりました。



「リフレクソロジー」とは、手のひらや足の裏は、全身の臓器や器官につ

ながる末梢神経が集中している場所(反射区)です。身体の特定の部分に対応する手や足の反射区に、指や手のひらを使って圧を加えるトリートメント方法がリフレクソロジーです。



リフレクソロジーの効果は多岐にわたり、血行促進、老廃物の排泄促進、免疫力の向上など身体的な効果だけでなく、心理的緊張や不安を緩和し、リラクゼーション(沈静化)とアクティベーション(活性化)をもたらし、精神バランスを改善する効果もあります。さらには、コミュニケ

ーションの一方方法として、リフレクソロジーを通じた個別ケアを行う過程で、信頼関係が築き上げられるとも言われています。このような

効果に着目し、こらぼの活動にリフレクソロジーを取り入れてみようという意見があまりありません。リフレクソロジー導入前の準備段階では、中部学院大学の横山さつき先生に指導を仰ぎ、職員が勤務終了後に1回90分のリラクゼーション・ケアマッサージ講座を全10回に渡って受講し、4名が資格認定証を取得しました。実際に職員同士で施術し合い、職員自身がリフレクソロジーの効果を確認した上で、活動に取り入れることになりました。現在も、横山先生に

はこらぼに来ていただき、手技の指導や仲間への施術をお願いしています。

一週間の最後の活動はリフレクソロジーを

こらぼでは、一週間の頑張りで蓄積された疲れを軽減し、ほっと一息つける時間を提供するために金曜日の午後にリフレクソロジーを行っています。定期的なリフレクソロジーを行うようになつて、仲間の姿に変化が現れてきました。



まずは身体面での変化です。排泄のコントロールがうまくできず、なかなか排尿しづらかった仲間が、リフレクソロジー後には排泄リズムが整い、体をスッキリとさせ、不快感が軽減されるようになりました。また、代謝が高まり、老廃物の排泄が促されることで、水分摂取が苦手な仲間も、普段より多めの水分がとれるようになりました。

そして、心理面でも大きく変わってきました。



こらばの仲間は日常的に長い距離を歩く機会が少なく、足が地面に触れることに慣れていないため、足の刺激を苦手とする人が多いです。五島さんも、リフレクソロジー導入当初は首を横に振り、触れられることや横になることを拒否していました。そこで、無理強いせず、まずは触れても平気な手に刺激をいれたり、職員と一緒に他の仲間の足に触れたりすることからはじ



めました。触れ合うことで安心感を持ち、他の仲間が気持ちよさそうに施術を受ける様子を見て、五島さんも「自分もやってみようかな…」と少しずつ施術を受けられるようになりました。回数を重ねるうちに、拒否感が薄れてリラックスできるようになり、「気持ちいいね」という言葉とともに笑顔が増えてきました。リフレクソロジーをはじめ、毎月ほど経ったある



五島さんは普段横になって休むことを好まず、疲れていても「寝ないよ」と頑張りすぎる人が多いのですが、リフレクソロジーを通して心と体にはたらきかけ、安心できる関係を広げていった結果、緊張をゆるめリラックスして休めるようになりました。

現在でも、リフレクソロジーは五島さんにとって大好きな活動とまではいきません。足先の刺激はまだまだ苦手で、体を起こし「しないよ」と足を引っ込めてしまうこともあります。このとき、「嫌だった？でも、優しく触るならいいかな？」と五島さんの気持ちを受け止め、安心感を持つてもらった上で、苦手なところにも少しずつ挑戦してみようと

声をかけています。こうしたやりとりを積み重ねる中で、リフレクソロジーが五島さんにとって好きな活動になっていくといいなと思っています。

五島さんの姿から、体を休めるためには、まず心を休めること、安心して体をゆだねられる信頼関係を築くことが大切なのだと思惑しています。これから仲間が心と体を安楽にし、心地よい関係を築ける活動を実践していきたいと思っています。

第二いぶき 大堀愛子

参考文献

横山さつき(2012)

「リラクセーション・ケアマッサーズリフレクソロジーの技術を身につけよう」

いぶき 仲間のすがた 成人を祝う会

《いぶき

成人を祝う会》

いぶきでは今年度、白木さんが成人を迎えられました。白木さんをお祝いするにあたって、日ごろ一緒に仕事をしているライラックの仲間が会の企画と運営をうけもちました。



成人を迎えた白木さんは、いつも元気で明るい人です。今回の会ではいつもの白木さんとは少し違い、まっ白な袴を身に着け、緊張した面持ちで新成人の誓いをのべていました。仲間たちからのお祝いムービーが流れているとき白木さん

を見ると、前のめりになりうなずきながら、ひとつひとつのメッセージを読む姿がありました。普段一緒に働いている仲間からの言葉は特別で、本当に嬉しかったのだと思います。当日は、白木さんの小学生時代の恩師の土井先生にご出席いただき、お祝いの言葉をいただきました。先生は学生時代の白木さんの話をとても嬉しそうに表情で懐かしそうに話されていました。



また、お母さんから会場のみんなへのあいさつで、涙ながらにこれまでの思い出を語られ、会場の中には聞きながら涙を流している方もいました。その横で、白木さんは話しているお母さんをじっと見つめ耳を傾けていました。お母さんや先生の話聞き、白木さんが今まで多くの人に大切にされ育ってきたことがよく分かる日となりました。

白木さんは今年度から製菓の作業室にかわ



りました。しかし、ずっと昔から一緒に働いていたかのように感じるほど部屋にとけこみ、仲間たちからも大切にされる存在になっています。



これは、白木さんの明るい人柄や、日ごろ仕事をがんばる姿によるものだと思います。これからもライラックの仲間、いぶきの仲間と一緒にがんばってほしいです。

いぶき 加藤千尋

《第二いぶき

成人を祝う会》

今年成人を迎えた第二いぶきの仲間は河出あみさんと山田真衣さんです。

成人を迎えた二人を、第二いぶき全員でお祝いしました。

河出あみさん



ふたりの胸で輝くコサージュは、それぞれの誕生日に染められた百々染のポケットチーフでつくったものです。生い立ちビデオやお世話になった特別支援学校

山田真衣さん



の先生たちからのメッセージ映像が流れ始めると二人とも食い入るように画面を見る姿がありました。また、まわりの仲間たちからも「かわいいね」と言った声や「真衣さんらしい」といった暖かい声で会場全体が和やかな雰囲気になりました。



仲間たちからのプレゼントくす玉。たくさんの紙吹雪がひらひらきれいで見とれています

河出あみさん、入所当時は不安いっぱいでしたが徐々に第二いぶきでの生活にも慣れてきて、お気に入りの場所をみつけました。仕事では百々染のポケットチーフを染めています。部屋の仲間にも「染液を用意してほしい」とお願いされると、チャリと仲間の顔を見て入れてくれます。

あみさん、これからもみんなと一緒に笑顔で過ごしましょうね。

山田真衣さん、第二いぶきに入所してからたくさんの言葉を覚えました。最近では一緒に散歩に行く人の名前を覚え「ちかちゃん」「たーまきさん」と名前を呼んでいます。散歩では百々染の材料となる草採り花採りをするようになり、「葉っぱ」「花採り」と言葉も覚え、葉っぱちぎりと花取りの仕事を集中してやっています。

真衣さん、これからも一緒にいっぱい笑いながら元気に過ごしましょうね。

お母さんに感謝の気持ちを込めて花束をプレゼント！



ご両親とともに記念撮影



いぶき 仲間のすがた

仲間がいるということ

いぶきのケアホームではこの10年余り仲間の入れ替えがありつつも、現在では最年長は77歳から最年少は31歳の仲間が生活をして

います。ホームに入ったばかりのころはどの仲間も戸惑い、一緒に住む仲間同士のいざこざもありましたが、長い年月一緒に過ごす中でその関係性にも変化がみられました。これはそんなエピソードのひとつです。

ホームの仲間たちの中には、第二いぶきでの余暇活動『ほりでい』に出かける仲間がいます。時間をみはからず

てホームから送りだすと、お迎えのバス停まで一人で歩いていき、第二いぶきのバスに乗り、出かけていくのが常でした。

ところがある日、送迎の職員からAさんがバス停にいないと連絡が入ったのです。あわてて探しに出ると、送迎のバス停とは逆の方向に歩いている姿が見つかりました。本人も何かおかしいと思って

出かける日は、ホームにいる人たち全員で送り迎えをするようになりました。他に一緒に行く仲間がいてもみんなを送り迎えをしていたのですが、その内Aさんと一番付き合いの長い10歳年下のBさんが「一緒に手つないで行くで！」

と言いだし、AさんとBさんの利用日がかさなった日は、世話人が「ちゃんと一緒に歩いて行くんやよ」と言い添えて、2人で出かけることになりました。もともと、Bさんは歩くのがゆっくりで、一緒に歩いていてもおいていかれてしまうことが多かったのですが、『私がしっかりしなくちゃ!』というBさんの気持ちと、『一緒に

行こうね!』というお互いの気持ちがあわさったことで、どちらが引っ張るというわけではなく、歩くテンポも合い仲良く出かける姿が日常になりました。一緒に手をつないで行く姿はともほほえましく見えましたし、Aさんもさぞかし

安心できたことでしょう。また、これとは逆に張り切っていたBさんが元気なさそうにしている「大丈夫?」とAさんが声を掛ける姿も見られ、お互いに心配しているのだなと感じられました。

笑ったり、泣いたり、怒ったり、いろいろな表情を見せる仲間たち。それぞれの仲間が戸惑いながら、様々な姿をその人の一面とし

て、お互いを受け止められるようになっていく力をもっているのだと思います。そして、それぞれの関係性をこれからも広げていくのです。

地域生活支援部
岩井 志保

ホーム一泊旅行



如月や弥生にかけての朝、第二いぶきへ通勤途中に、トンネルを抜けると、真つ白な御岳の頂を望む機会が増え、楽しくなります。また、その堂々さが私は好きで、今日も頑張ろう！という気持ちを私に起こさせてくれます。

この堂々さというのが、普段の仕事の上でも大事で、ひとたび職員が不安な気持ちや自信がない態度に陥って堂々さに欠ける行動になると、利用者の方は、その気持ちを察知して、様々な行動で訴えかけてきます。それは、拒否的であったり、職員のそういう感情にわざとつついてみたりということになります。

『これがいんだー！』という堂々さを職員が

身に付けるためには、知識や技術、経験も必要ですが、職員同士でのコンセンサス(合意形成)も必要な事です。このことは、そう簡単なことではなく、日々の議論を積み重ねてこそ、構築できることであり、議論なくして、日々の

ヨンの議論があります。法人設立からこれまで、社会福祉制度は大きく変わりました。それは、改悪と言っても過言ではありません。十年後はどういう制度になっているのか分かりませんが、これまでのいぶきの実践を今後もやり続け

めちやくちゃにはならないだろう、このような空気があったのは確かです。この事は、今までもそうだったかもしれないのですが、職員間でそんなに議論を深めてこなかった経緯があります。話し合いはしているのですが、自分の考えと

職員のすがた 「堂々さをかたちづくるもの」

実践はないと、私は考えています。ここで、現在進行形で職員の間で取り組んでいる議論をご紹介します。

最近の職員の動きとして、昨年度より始まっている『十年後のいぶき福祉会をどうあり続けたいのか?』というビ

たいという思いは個々の職員も持っており、そのことに向き合い続けようとしています。ビジョンの議論当初は、十年後の壮大なスケールに想像が及ばず、正直、他人事でした。誰かがやってくれるだろう、制度が変わってもそんなに

他の職員の考えとどこが同じで、どこが違うのか、言葉で確認してこなかった様な気がします。そのことをビジョンの議論を通して、今、求められていると考えています。このビジョンの議論は、十年先の話ですが、実は、今の職員集

団をどうしていきたいのか、ということでもあるような気がしています。

こうした雰囲気議論を進める中で、少しずつではありますが、各々が自分ごととして、自分の言葉で語り出そうとしています。元来議論好き?な私にとっては、仕事が前よりも楽しくなってきたところです。他の職員と議論が合わないことは、今後もあるでしょう。ですが、そのことにも向き合い続けて、誰もが『そうやなあ。』と納得できる十年後のいぶき福祉会のいいビジョンを作りたい、こう考える私がいいます。

第二いぶき 和田善行

今年もFC岐阜を 応援します



第二いぶきの仲間たちがFC岐阜を応援するようになったのは2008年の夏のことです。まだJリーグに昇格したばかりの頃、おらが街のクラブチームに、地域の一員として私たちにできることはないだろうか考える中で思いついたのが、私たちならではの一品「招き猫マドレーヌ」のプレゼントでした。以来、今年で7シーズン目。ホームゲームの前には必ず利用者さんたちがチームを訪ね、年間約25試合を二試合も欠かすことなく続けてきました。チームに福と勝利とお客さんと、それから夢のJ1昇格を「招く」ようにと皆で願いながら……!

それまでまったくサッカーに関心もなかった私たちが、チームの勝敗に一喜一憂するようになり、活動に「この街に暮らすひとり」として、この街を元気にするために私たちができるささやかで確かなこと」という視点が加わってくるようになったのは、そんなFC岐阜とのつながりがきっかけでもあります。そして去る3月26日。これまで地道に応援してきた利用者さんたちに、ビッグサプライズがありました。ラモス監督や代表経験のある川口キャプテン、三都主選手との夢の対面が実現したのです。代表して訪問したのは、「いつか親子でスタジアムに行くこ

とが夢なんです(お母さん)」という平田良介さん。FC岐阜を応援し続け、代々の選手やフロントの方にもすつかりお馴染みの酒井聡さん。それから大のサッカーファンなのにまだスタジアムに来たことがなかったという須甲卓馬さん。



持参した招き猫マドレーヌをたてつづけに4つ口に運んだラモス監督は「おふくろの味がする!」といったながら笑顔で親指をたてたグッドサインを酒井さんと何回も何回もかわし

川口キャプテン



三都主選手

平田さんと須甲さんの足をさすりながら「パワーパワー、大丈夫、大丈夫!」と語りかけていました。帰り道「こんな日が来るなんて!」と興奮して須甲さん夢は夢で終わらないんです。今年も私たちは、FC岐阜を応援します。



■ねこの約束JR岐阜駅店は、マーサ、21C岐阜事務所の3箇所にある実券販売所のひとつ。コンビニよりもお値打ちに前売券を購入することができます。当店の販売手数料はいぶき福祉会の利用者のシゴトづくりに活用されます。

■ホームゲームスケジュール

4月20日(日) 13時
対栃木SC

4月29日(火) 13時
対ザスパクサツ群馬

5月6日(火) 13時
対ジェフユナイテッド千葉

5月25日(日) 19時
対ギラヴァンツ北九州

6月1日(日) 19時
対京都サンガF.C.

6月14日(土) 13時
対ジュビロ磐田

6月21日(土) 18時
対V・ファーレン長崎

7月20日(日) 18時
対横浜FC

7月30日(水) 19時
対ファジアーノ岡山

8月10日(日) 19時
対愛媛FC

8月31日(日) 18時
対東京ヴェルディ

後半のスケジュールはFC岐阜の公式ホームページでご確認ください。
<http://www.fc-gifu.com/>

後に引けない

募金活動始まる

「いぶき」は1995年に開所しました。その法人認可に必要な書類の提出期限は1993年12月でした。それまでに自前の建設場所の確定、利用者名簿、自己資金等を揃えなければなりません。建設費は県・市の補助金を含み1億5千万円となり自己資金は最低4500万円必要でした。前号でも書きましたが、1993年6月時には自己資金は600万に届いていませんでした。書類提出までの6ヶ月の間に4000万円近くを集めなければ法人認可施設建設をあきらめなければならぬ状況だったのです。

7月に入り自己資金を集めるための会議が招集されました。当然このままの資金づくり活動ではとても4千万円は集まりません。会議は日をまたぐことも度々でした。身近に大金持ちの篤志家はいません。みんなの募金活動で集めきろうと激しく檄が飛

ど可能な限り多くの人たちに呼びかけることが、また理解してもらうには一口千円からの募金で活動しやすいことが確認されました。募金呼びかけの依頼文や振込用紙、寄付申込書などが整い、今から思うと過酷な募金活動が始まりました。

募金活動の主なもの

いぶきがでできるまで

その五

(?)な人たちのコンサートに足を止めて聞いて下さる方々や手作りの商品を買って下さる方にこの催しの目的を話し、募金を訴えました。何の関わりもない方が1万円(札)を募金箱に入れて下さることもありました。市民の方々の心の暖かさを感じました。また、

ばされました。一人に大きな額の募金を求めるのは難しいことは分かっていた。そこでいぶきがどうして障害を持つ人たちの作業所をつくろうとしているのかを知ってもらい理解してもらうために親戚や知人や地域の方はもとより同窓生や職場の人な

を紹介させていただき。岐阜中心部にある金公園を借りバザーとアピールのコンサートをおこないました。まだ「いぶき」の知名度はほとんど無い状況の中、岐阜市の公園緑地課に電源使用も含め無償での使用許可を得て、開催することが出来ました。無名

各種の集会に参加して作業所づくりの意義を話し、募金を訴えました。岐阜教組主催の教研集会にいぶきに入る予定の仲間Oさんが参加し、トリーキングエード(キーボードで打った文章を发声する自助具)をその場で打って「ぼくのはいるしせつのためにぼきんして

ください」と訴えました。これはまだOさんが高等部1年生の頃で、その後予定通り「いぶき」が開所でき、高等部2年で中退をして、入所することができました。

先日、北民商主催で柳ヶ瀬商店街の衰退を憂う民商会員の資金提供によるお酒を楽しむ会がありました。私は会員さんとの面識は無いはずですが、その店の女将は「いぶき」の名前をご存知でした。募金活動できめ細かく回してもらった小集会に参加されていた一人であつたのでしょうか。会話はしませんでした。今でもいぶきを気にかけていただけているようです。次回も募金活動を紹介します。思います。

いぶき 横幕嘉行
※次号につづく

第23回

いぶきふれあいまつり

この街で
心づなひで
夢よひるがれ

日時

2014年4月20日(日)

10:00~14:00

(模擬店は10:30スタート)



会場

岐阜市立島小学校
島公民館

*雨天の場合は体育館で開催いたします

おみせ

フランクフルト・やきそば
おいざり・みたらし団子・カレー
うどん・衣料品・陶器 など...

ステージ

こんちくと・島中ギターマンドリン部
済美高校ブラスアンサンブル部
ダンス・仲間の主張・うた など...

問い合わせ先

いぶきふれあいまつり実行委員会事務局(いぶき内)

☎058-233-7445 担当:森

主催:いぶきふれあいまつり実行委員会

後援:岐阜市・岐阜市教育委員会・岐阜県社会福祉協議会・岐阜市社会福祉協議会



＊後援会通信は、発送日の20日前より発送作業に入ります。そのため、会費を振り込んで頂いても未納扱いの封筒が配達されてしまう場合がございますが、次号にて更新済みの封筒に変わり、後援会通信と一緒に領収書などを送らせていただきます。

(寄付御礼)

・日本キリスト教会

岐阜教会様

・宮川光子様

・岐阜県共同募金会様

・大智寺様

・島小学校PTA様

法人設立20周年 記念事業についてのお知らせ

いぶき福祉会は1994年7月に岐阜市で初めての障害者福祉分野での社会福祉法人として認可されました。そしてその翌年1995年4月に岐阜市島新町に「いぶき」が開所しました。

法人設立から20年目を迎えるひとつの節目を迎えるにあたり、これまでいただいた数々のご支援に感謝し、これまでのいぶき福祉会の歩みをご報告する機会をいただければと

思っております。また、いぶきが大切にしてきたこと、これからも大切にしたいこと、これから創り拓いていく道について、今一度ともに集い、語る機会をいただきたいと思っております。今夏から来年度にかけての事業を予定しております。皆様には紙面およびHP「いぶきの小窓」でご連絡・ご報告させていただきます。皆様からのご意見を伺い、よりよい福祉会にしたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

後援会員への新規加入・更新を よろしくお願い致します

〔振込先〕

郵便振替 00840-3-911146

加入者名 いぶき福祉会後援会

〔年会費〕 一般会員 一口 2,000円

団体会員 一口 10,000円

〔お問合わせ〕

いぶき福祉会後援会事務局

TEL 058-233-7445

FAX 058-232-9140

E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp

(タイトルに後援会員と入れて下さい)

後援会への入会はJR岐阜駅の

「ねこの約束」でも

手続きしていただけます



編集後記

「いぶきができたまで」として、いぶき最古参の横幕さんが執筆している連載記事は如何でしょうか。これは、今年で20周年となる社会福祉法人いぶき福祉会の誕生前からの30余年に及ぶいぶきの歩みを、後援者の皆様はもとより、新しい職員や仲間や保護者の皆さんにも理解して頂きたい、という意図で編集されていきます。温故知新という言葉があります。いぶきの新たな取組みも既存の歩みや歴史があつてこそのものでしょうし、過去を踏まえて反省しつつも、これまでの蓄積を生かしてこそ、いぶきの未来が本当に拓けるのだらうと思っております。

編集委員長 竹内章郎